

学力向上のための重点プラン【中学校】

新宿区立西新宿中学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1】

授業作り	重 点	学ぶ喜び、わかる喜びを味あわせ、確かな学力を育成するために、問題解決的な学習を取り入れた授業を行う。またタブレット端末およびICT機器を活用し、生徒同士が協働的に考えを共有することを促し、学習意欲の向上及び学習内容の定着を図る。
環境作り		ユニバーサルデザインと人権尊重の視点から、教室内および校内の掲示物の内容、色や掲出位置に配慮し、誰もが集中して授業に取り組むことができるよう環境を整える。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着が不十分な生徒がいるが、「知識・技能」における「漢字の読み書き」がやや向上してきている。 全体的に根拠を示しながら自分の考え方や意見をまとめて書くことに関して課題がある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や家庭学習における漢字の反復練習や小テストの実施を行ったことで、全体的には成果があり、学力の定着に効果があったので、今後も継続する。 授業の中で考え方や意見の根拠となるような調べ学習の機会を増やし、それを基に発言する場面や話し合い活動および文章にまとめる機会を多く取り入れて、生徒の思考を促す。 	①基本事項の反復学習 ②小テストの実施 ③話し合い活動の設定 ④デジタルドリルの活用 ⑤インターネットや本等の資料を活用した調べ学習の充実（探究学習の実施等）
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の定着がやや向上してきている。 文章を読み、的確に課題を読み取ること、適切に判断することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行った授業内容の確認プリントを解き、正しい導き方や別の解き方を確認することで、全体的な学力の向上に効果があった。また、毎時間の提出を促すことで、提出への意識を高めることができた。また、途中式などの計算過程を評価することで、意欲的に取り組めるようになってきている。今後も継続する。 	①基本事項の反復学習 ②小テスト・単元テストの実施 ③デジタルドリルの活用 ④振り返りシートの活用
理科	<ul style="list-style-type: none"> 事象から共通点を見出し、自分の考え方を記述することに課題のある生徒が多い。 基礎学力の定着が不十分な生徒はいるが、身近な事象についての理解はできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考する場面を意識して設け、論理的に自らの言葉で考え方表現できるような力を育成する。 学校（朝学習・授業）や家庭で基礎学力の定着に向けてデジタルドリル等に繰り返し取り組ませ、考える力の土台をしっかりと育む。そのうえで、解ける・気づける・意見を述べられるなどのできることを増やしていく、学ぶ意欲を高めていく。 	①基本事項の反復学習 ②単元の基礎知識を適宜確認 ③ワークシートや発問の工夫 ④デジタルドリルの活用
社会	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能に比べ、思考・判断・表現の正答率が低い。 歴史的分野の方が地理的分野よりも正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストを実施して基本的事項の定着を図るとともに、生徒同士の協働学習を多く取り入れて、生徒の思考を促す。 朝学習の時間にデジタルドリルに取り組ませる。その際、一人ひとりに個別最適な課題を選択して配信する。 	①基本事項の反復学習 ②単元ごとの確認テスト実施 ③活動的な学習の場面を設定 ④デジタルドリルの活用
英語	<ul style="list-style-type: none"> 既習の語彙、文法など基礎的、基本的な知識の定着に課題がある生徒がいる。 既習事項を応用し話す、書くなど表現する場面で、特に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルやAI音読採点の主体的な活用を通して、既習事項の定着を促す。 場面や状況を設定し、身近な話題から生徒の発話意欲を高め、書く作業にもつなげることで表現能力を高める。 	①基本事項の反復学習 ②場面設定を明確にした言語使用 ③AI音読採点の活用 ④デジタルドリルの活用